（様式２）

放射線等に関する教育実践事例

学校番号・学校名	＜中・３０＞　　いわき市立　磐崎　中学校

＜実施日＞　　平成２７年１２月２１日（月）

＜実施教科等＞

１　理科　　②　学級活動　　３　総合的な学習の時間　　４　その他（　　）

＜実施内容＞

１　授業のねらい・・・放射線の基礎知識や放射線による人体への影響、さまざまな分野で利用されている放射線の一面などを知ることにより、正しい知識をもとに判断しようとする心情や態度を養う。

２　資料・準備物・・・DVD「偉人から受け継ぐもの」「よくわかる放射線講座」放射線量計、身近な放射性物質（昆布など）

３　授業の実際

(1)　DVD「よくわかる放射線講座」を視聴する。

①放射線の種類　②放射線の利用　③放射線の健康への影響

(2)DVD「偉人から受け継ぐもの」を視聴する。

・放射線の発見、放射線の利用の歴史

(3)身近な放射性物質について考える。

①放射線量計の使い方

②バックグラウンドを測定する意味

③身近な放射性物質の放射線量を測定する。

(4)　授業を振り返って感想やわかったことをまとめる。

＜成果＞

・東日本大震災当時生徒たちは小学２年生だったので、放射線の体への影響についてよくわからないまま、原発の事故により避難を余儀なくされた生徒もいる。放射線の種類や体への影響について正しい知識を得ることは、今自分が置かれている状況や今後の見通し、将来にわたってどんなことに注意していくべきかについて自分の考えをもつために必要なことであると考える。今までも毎年のように放射線教育を継続して受けてきているが、同じような内容でも生徒の発達段階により受け止め方に違いがある。今回の放射線に対する学習を通して、原発の事故より少し時間が経ち、薄れつつある放射線の影響について、改めて正しい知識を得ることができ、また、将来にわたって何に注意を払い、どこまでなら大丈夫なのかについて再確認できたと思われる。

・放射線量計を実際に使うことで、身のまわりの目に見えない放射線に対して意識することができた。

＜課題＞

・実際に原発事故により避難を強いられている生徒、また、親が東電や東電関連施設ではたらいている生徒もいるので、使用する言葉や原発事故処理に関する内容には深入りしないようにしながら授業を進めていかなければならない。現在の正しい知識や情報を、教師側がきちんと把握しておく必要がある。

資料作成担当職（　教諭　）氏名（　真鍋幸枝　）	学校電話番号　（４２－２９７８）